

「あゆみ」 作・柴幸男

【登場人物】

私	尾崎さん
母親	友美（ゆみ）
父親	先輩
男子	同僚
犬	前田
娘	

本作は、舞台の幅を越えて登場人物たちが移動し続ける物語として書かれました。特に注意書きがない場合をのぞき、登場人物は矢印の方向へ移動し続けるイメージでト書きが書かれています。

役者同士は移動を引き継ぐことで、役柄も引き継ぎ、劇を進行させます。

例えば、登場人物Aが移動し続け、舞台から退場すると同時に、別の役者が登場人物Aを演じながら入場します。

誰がどのセリフを演じるかは、舞台の形、役者の人数によって変化します。

以上の注意書きは、あくまで、戯曲が書かれた時点でのイメージです。

上演の際に、順守しなければならないものではありません。

舞台はなるべくシンプルな方が良い。
画用紙みたいな白とか、宇宙みたいな黒とか。
客入れ中、舞台上には誰もいない。

開演。

0 助歩

役者たち、不規則に舞台に登場する。

歩いたり、座ったり、壁にもたれかかったり、見合ったり。

誰に言うともなく、以下のセリフを全員で分割して、

私 えーと私は、一生に、だいたい1億8千万歩ぐらい、歩きます。スキップとか、けんけんとか、お墓参りとか、扇風機の首を追いかけたりとか、お店に並んだり、デートしたり、夜中、喉が渴いてコップの水を飲んだり、そのゆーの全部合わせて1億8113万1982歩、です。それが多いのか少ないのかよくわかりませんが、そう思うとずいぶん遠くへ来たもんです。振り返っても、もう何にも見えないですけど、

セリフ中に、役者たちが徐々に一つの方向に歩き出す。

歩く速度も一定になり、動きは規則的になる。

一人が歩き切ったと同時に別の人間が歩き出す。

いつのまにか舞台には一人の「私」が歩き続ける。

役者たちの動きに導かれるように光の道が浮かび上がる。

私 でも、ふとおもむるに（止まって）立ち止まったりして、で、（歩き出し）また歩きだしたりして、考えてみると、でもこれって元をたどれば最初は、一歩、なわけ。これまでも、これも、これからも、どこまで行っても、最初の一步の続きなわけ。うれしくてなんか早足になっちゃったのも、行きたくないの我慢して無理矢理歩いたのも、全部そのあとの話だから、全部そこからはじまっているから。だから、まずはそこから。はい。じゃあ、行

きます。せーの、はじめのいっぽ。

私、飛び上がる。

1 はじめのいっぽ

私、着地する。

私 …… (危なげな感じでかるうじて立っている)

母親、登場。

母親 え、

私 ……

母親 え、うそ、ええ

私 ……

母親 ちよっと、ちよっと、お父さん、早く、お父さん

私 ……

父親 (袖から) え?

母親 歩く、歩きそつ

父親 (袖から) え、何?

私 ……

母親 ほら、あっちゃん、こっち、おいで、ほらー

私 …… (足を上げる)

母親 あ、

私 (一歩前へ)

母親 あー、すごいすごい

私 (もう一歩前へ歩こうとして)

母親 おお

私 (派手にこける)

母親 ああ!

私 (喜ぶ)

母親 喜んでる……

父親、登場。

父親 え?

母親 ちよっと

父親 なに

母親 ほら、

私 (ハイハイ)

父親 ……普通じゃないか

母親 ちがうの、歩いたの

父親 え、

母親 今

父親 歩いた?

母親 いいから、ちよっと見てて

父親 え?

私 (起きあがるうとしている)

母親 ほら、

私 (起きあがって、歩き出そうとする)

母親 ほらほらほら

私 (一歩)

母親・父親 おお、

私 (そのまま出ていく)

私、歩いていく。

母親・父親 ああ、

父親と母親、退場

2 デパート

「あゆみ」

私、小走りでやってくる。

私 (上手に) おかあさん

母親、登場。

私 こっち、こっち

母親 もー、ひとりで行っちゃダメって言ってるでしょ
私 これ(買って)

母親 だからだーめ
私 買ってー

母親、私を追い抜かし、歩いていく。
私は、母親の後をついていく。

母親 こないだ買ってあげたばっかでしょう

私 新しいやつなの

母親 一緒じゃない
私 ちがうの、暗いところでね光るの、あと音がでるんだよ

母親 じゃあ、暗いところ
私 じゃあ、暗いところ
母親 もっと、もっといっぱいいるの

母親 はいはい
私 あのスッキリじゃないと変身できないの

母親 お誕生日まで我慢しなさい
私 えー

母親 じゃあ、にんじん食べられるようになったら買ってあげる
私 食べれるよ

母親 うそ
私 ほんとだよ

母親 うーそ
私、立ち止まる。

私 ……

母親、立ち止まる。

母親 ほら、行くよ

私 ……
母親 また今度ね

母親、行ってしまふ。

私 ……!

私、走っておもちゃ売り場に戻ってしまふ。

私 (おもちゃ!)

私、しばらくおもちゃを眺めたあと。

私 ねー、おかあさ……、

母親、いない。

私 ……おかあさん

私、母親を探す。徐々に通行人が増えてくる。

私 おかあさん……

私、母親を探す。

私 (母親を見つけて、駆け寄る) おかあさん!
他人 え?

私 あ、(ちがう人だった)
他人 あれ、
私 あ、あ、
他人 あ、

私、走って逃げてしまう。
徐々にスピードを落ちてくる。
私、とぼとぼときよるきよる。
ついには、立ち止まりうつむく。

私 ……

母親、登場。

母親 (私の頭に手を置き) もー、あっちゃん、どこ行ってたの
私 ……
母親 だからひとりで行ってちゃダメって言ってるでしょ
私 ……
母親 ほら
私 (母親にしがみつく)
母親 なに、どうしたの
私 (しがみついている)
母親 えー? (自然とだっこに移行)
私 (素直にだっこされる)
母親 どうしたの?

母親と私、退場。

3 捨て犬

私、登場。見えないランドセルを背負っている。
男子、登場。

男子 ついてくんなよ
私 しょうがないでしょ、通学路なんだから

男子、行ってしまおう。

私 ちよつと、寄り道
男子 うっせ
私 まっすぐ帰らないと先生に怒られるよ

男子、戻ってくる。

男子 (同時に) ちくんなよ
私 (同時に) 言うよ
男子 ほんと女子さいあく、ブス
私 バカ
男子 ブスブス、あほ、あほみ、中野あほみ
私 あほみじゃないし

犬、登場。

男子・私 (立ち止まり) あ、
犬 (止まる)
私 ……犬
男子 ……おん(おおとうん)
私 犬だよ
男子 ちっちえ
私 赤ちゃん?
男子 子犬だろ、赤ちゃんはもっと、ちっちえーし
私 首輪してない
男子 野良犬だ

犬、ちょっと前進。

男子・私 あ、(2人、後ずさり)

犬 (止まって) ……

私 捨てられたのかな

男子 野良犬、野良犬

私 行かないの

男子 なにが

私 だって

男子 行くよ

私 うん

男子 ……

私 え?

男子 なんだよ

私 だって

男子 だから行くって

男子、ゆっくりと犬に近づく、

男子 (犬の横でなんとなく立ち止まり、犬の頭をなでてみる)

犬 (おとなしくなでられる)

男子 ……よしよし(ぎこちなくなでつつける)

私 ……(恐る恐る近づき、犬をなでる)

犬 (おとなしくなでられる)

私 かわいい

男子 おい気をつけるよ

私 え

男子 かまれたら病気になるぞ

私 そうなの

男子 そうだよ

私 触っちゃった

男子 いや、かまれなかったら平気だけど

私 そっか

男子 うん

私 病気になるったら、死んじゃう?

男子 死ぬ

私 ふーん

2人、なんとなく怖くなって手を引っ込める。

男子 行くぞ

私 うん

男子と私、歩く。犬、ついてくる。

私 ……ついてくる

男子 見んな

私 だってついてきてる

男子 だから見んなって

私 でも

男子と私、歩く。犬、ついてくる。

私 どうしよう

男子 知るかよ

私 えー

男子 うるせー

私 ……

男子 ダッシュ!(走る)

私 え、待って(追いかけて走る)

男子、走って行ってしまふ。

私 早い

「あゆみ」

「あゆみ」

私、走っている。犬はいつのまにかいなくなった。

私 …… (立ち止まり、後ろを確認する)

犬、私の前から登場。

私 !

犬 ……

私 …… (犬を気にしながら)

私、おそろおそろ歩く。犬、ついてくる。

4 飼い犬

私、もじもじしている。

私 (下袖に向かって小声で) お父さん、帰ってきた

父親、登場。

私 ……おかえりなさい

父親 ただいま

私 うん

父親 ……なんだ、あの犬は、

私 コロ、

父親 コロ?

私 学校の帰りに、いて、ついて来ちゃったんだけど、

父親 ……

私 あの、……飼ってもいい?

父親 ……

私 毎日、学校から帰ったら散歩に行きます。あとこれから、毎日お風呂掃

除はあみがします、あと、朝刊と夕刊とつてきます。だから、お願いします。

父親 ……お母さんは
私 お母さんは、お父さんに聞きなさいって…、お願いします。
父親 ……

父親、外へ。私、追いかける。

私 ……

犬、登場。

私 すごい、おとなしくて良い子でしょ、だから……

父親 (犬をじっとみつめる)

私 ……ね、コロコロしてるでしょ、

父親 足、

私 え、

父親 足、拭いてあげなさい

私 ……はい!

父親、退場。

私 よかったねえ

犬 ……

私 ほら

犬 ……?

私 入っていいんだよ

犬、家に入っていく。私、ついていく。

5 尾崎さん

「あゆみ」

犬と私、歩いている。
犬には首輪（靴ひも、タイツ？）が繋がっている。
犬、水たまりの水を飲もうとする。

私 だめ、そんなの飲んじゃ

尾崎さん、登場。

尾崎さん あ、

私 あ、

尾崎さん 中野さん

私 あ、うん

尾崎さん 偶然

私 ね

尾崎さん 散歩？

私 うん、あれ、尾崎さん家って堤防の、

尾崎さん うんそう、向こう、向こう側、

私 どうしたの

尾崎さん うん、ちよっと、中野さん家の犬？

私 うん

尾崎さん 触ってもいい？

私 いいよ、怖がつてる

尾崎さん かわいい、女の子？

私 うん、メス

尾崎さん なんていうの？

私 コロ

尾崎さん コロ？

私 コロコロして……ただけど、昔は、

尾崎さん いくつ？

私 うーん、4歳くらい、たぶん、拾ってきた子だからよくわかんない

尾崎さん そうなんだ、こっち行くの？

私 この先に公園があって、いつもそこに行くの

尾崎さん ……途中まで一緒に行ってもいい？
私 いいよ

犬を先頭にして、私と尾崎さん、歩いていく。

6 一緒に散歩

犬を先頭に、私と尾崎さん、歩いている。
二人、笑いながら。

私 で、木村先生が歩いてきたんだけど

尾崎さん うん

私 そしたら、木村先生ジャージ反対に着てんの

尾崎さん えー

私 でも、全然気がついてないの

尾崎さん あほだー

私 でしょ

尾崎さん うらおもて反対って

私 ちがうちがう、反対、反対に着てるの

尾崎さん え、前後ろ？

私 ううん、だから、反対

尾崎さん ええ？ なに？

私 上下、上下反対

尾崎さん え……

私 それでこうやって歩いてきた

二人、笑う。

尾崎さん おかしー、あはは、あみちゃんておもしろいね

私 そう？

尾崎さん あ、宿題おわった？

私 え、

「あゆみ」

尾崎さん ドリル

私 あー

尾崎さん 明日、提出だよ

私 やばいー、尾崎さんは？

尾崎さん あとちよつと、

私 いいなー

尾崎さん あ、じゃあ、あたしこっち

私 あ、うん

尾崎さん また明日ね

私 うん、また公園で

尾崎さん うん

私 じゃねー

尾崎さん ばいばい

犬と私、歩いていく。尾崎さん、反対方向へ退場。

7 帰宅

犬と私、歩いてくる。

私 ただいまー

母親 (袖から) おかえりなさいーい

私 (犬の足を拭きながら) おなかすいた

母親、登場。

母親 おそい、どこまで行ってたの

私 え、あ、ごめんなさい

母親 最近、いつも。心配するんだから

私 ごめんなさい

母親 コロが一緒でも危ないでしょう、一人でこんな時間まで

私 ちがうの

母親 え？

私 あのね、尾崎さんと話してたら遅くなって

母親 尾崎さん？ 友達？

私 うん、最近仲良くなった、同じクラス

母親 近いの？ おうち

私 家はね、堤防の向こうの方、

母親 なに、そっちまで行ってるの？

私 ちがう、なんか尾崎さん、毎日こっち来てて

母親 どうして

私 わかんない

母親 じゃあ、その子も危ないでしょう。もう少し早くしなさい。

私 はーいごめんなさいーい、今日のごはんなに？

母親 からあげ

私 わー

母親 手洗ってください

私 はーい

母と犬、退場。追って、私もつづく。

8 家庭科室

私、手を拭きながら、やってくる。

続いて、女子1・2・3、登場。

女子1 ねーねー、あみちゃん宿題やってきた？

私 うん

女子1 うそー、よくおぼえてたね

私 うん、まあね

女子2 えらーい

女子1 あたし忘れてきちゃった、どうしょー

女子3 あたしも

私 えー

「あゆみ」

女子1 あみちゃん、見せて、お願い
私 いいけど間違ってるかもしれないよ、急いでやったから

尾崎さん、登場。

女子1 え？
尾崎さん ドリル、ちゃんとやった？
私 ……あ、うん、やったやった
尾崎さん みんな、家庭科室行くの？
女子1 ……うん、そうだけど
尾崎さん あたしも一緒に行つていい？
女子1 え、
尾崎さん 教科書とつてくるね、ちょっと待つてて

尾崎さん、退場。

私 ……
女子1・2・3 ……
女子1 え、なに？
女子2 さあ
女子1 あみちゃん、最近、尾崎さんとよく話してるよね
私 え、そう
女子1 だつてねえ
女子3 うん
私 ……
女子2 え、なんで、
私 ……なんか、なんとなく
女子2 ふーん
女子1 ……行つちやわらない？
私 え？
女子1 行つちやおうよ
女子2 行つちやう？

私 え、でも
女子1 行こう行こう
私 え、え、
女子1 いいよ、待たなくて
女子2 うん

女子1・2・3、行こうとする。
私、迷っている。

女子1 (止まって) 行かないの？
私 ……だつて
女子2 あみちゃん、行こう
私 ……

私、ついていってしまふ。

女子1 なんて待たなきゃいけないの？
女子2 ほんと、ねー
女子1 走るつか
私 え？
女子1 走ろうよ、だつて追いつかれちゃうよ、ほら
女子2 えー
女子1 急がないと、来ちゃう来ちゃう
女子2 (笑う)
女子1 ほら、あみちゃんも、
私 あ、
女子1・2・3、走って退場。
私 ……

私、思わず走り出すも徐々にスピードが落ちて歩き始める。

9 お見舞い

私、犬を連れて登場。

私 …… (尾崎さんを探すがない)

母親、登場。

母親 おかえりなさい

私 …… ただいま (犬の足を拭く)

母親 早いね

私 …… だって、早く帰って来いって言ったじゃん

母親 そうだけど、今日は遊ばなかったの？ 尾崎さんと

私 うん

母親 そう、じゃあこんど遊ぶときこれ持ってって、

母親、靴箱 (中には丸めた赤い靴下) を持っている。

私 なにそれ

母親 りんご

私 いらぬよ、そんなの

母親 (私に渡す) いいから持ってきなさい

私 いいよ

母親 なんて、お見舞いですって言えばいいから

私 …… なにそれ

母親 尾崎さんのお母さん入院してるんでしょう、

私 え、

母親 病院、毎日お見舞いに行ってるんだってね

私 そうなの？

母親 そうなのって知らないの？

私 …… 知ってるよ

「あゆみ」

母親 なにそれ、だからそれ持っていきなさい

母親と犬、退場。

私 ……

私、りんごを持ってつづく。

10 朝食

私、てぶらでやってくる。

私 ……

母親、登場。

母親 おはよ、ごはん早く食べなさい

私 お母さん、気持ち悪い

母親 え？

私 …… 熱でてる

母親 うそ、

私 ほんと

母親 風邪？

私 …… 今日、学校休んでもいい？

母親 ええ？

犬と父親、登場。

父親 お母さん、ネクタイは、赤い、

母親、私のおでこに手を当て、

「あゆみ」

母親 してるじゃない
父親 これじゃなくて、もっと赤いやつ
母親 ああ、タンスの2段目
父親 ないよ

父親、退場。

母親 ちゃんと入れました
私 ……
母親 (自分に当て) あたしの方が熱い
私 うそ
母親 うそじゃありません
私 でも、だるいの
母親 学校に行けば治る
私 お母さん、
母親 行つてつらくなったら帰つてきていいから
私 休む
母親 いけません
私 ……
母親 行つてらっしゃい、
私 ……
母親 ほら、朝ご飯
私 いらぬ
母親 じゃあ、牛乳だけでもいいから
父親 (袖から) やっぱりない
母親 うそ

母親と犬、退場。

私 ……

私、しびしび歩く。

11 登校

男子、登場。いつのまにか私は見えないランドセルを背負っている。

男子 おい、あほみ、おせーよ、サクサク歩け
私 ……
男子 無視すんな
私 …… 抜かせば
男子 え？
私 だったら抜かして行けばいいでしょ
男子 ……

男子、私を抜かす。

男子 お前、どっかわるいんじゃないの
私 別に、
男子 あ、宿題やつてくんの忘れたんだろ、俺もやってねー
私 あのさ、
男子 え、
私 あんた、なんか悩みとかないわけ
男子 悩み？ あるよ、二学期まじなげーよな
私 ……

私、男子を抜かして行く。

男子 ……なんだよ
私 ……
男子 (ポケットから何かを出して私に渡す) ……ほら
私 ……なにこれ、
男子 練り消し(黒タイツ、もしくは黒いゴム靴ひも)
私 え、

「あゆみ」

男子 消しゴムのカスを集めてコネたやつ
私 汚い
男子 ばか、そこまで集めんのめっちゃ大変なんだって
私 ……
男子 こんなでかいの誰も作ってねーから、伸ばしてみろよ
私 (伸ばしてみて) おお
男子 な、すげーだろ
私 うん、
男子 おお、

間。

私 え、
男子 おい
私 え、何、
男子 返せよ
私 え、くれるんじゃないの
男子 そんなこと言ってるねー
私 ……
男子 お前なんかにやるわけねーだろ
私 ……
男子 早く返せよ
私 (道に投げ捨てる)
男子 お前ふざげんな、
女子 (下手袖から) おはよー
私 あ、おはよー

女子、登場。

男子 まじでぶっ殺す
女子 なに、どうしたの？
私 わかんない

男子 てめー
女子 ちよつと梅原、あみちゃんいじめないでよ
男子 いじめてねー
女子 なに、あみちゃんのこと好きなの？
私 え、
男子 ちげー、んなわけねーだろ
女子 じゃあ、あっち行けば
男子 なんてだよ
私 あ、(立ち止まる)

男子と女子、退場。
尾崎さん、登場。

私 ……あ、
尾崎さん ……(一瞬、立ち止まるが)
私 おはよう
尾崎さん ……(無視して私を追い抜かず)

尾崎さん、退場。

私 ……(うつむく)

1 2 友美

別の私、登場(舞台上に私が二人になる)。

私2 ……

友美、登場。

友美 (私2の背中を叩き) よっす
私 うわ、ああ、なんだ、

「あゆみ」

友美 おはよ
私 おはよ

私、退場（以下、私2を「私」と表記する）。

友美 なにブーツとしてんの？

私 あ、いや、なんか、昔のこと思い出してた、

友美 え、昔の男、

私 ちがう、小学校、

友美 え、小学校の男、

私 だから、ちがうって

友美 なによー

私、立ち止まる。

友美 あ、今日もっすか

私 うん

友美 あねえ、数Bあるよね、今日

私 うん、二限

友美 あーあたしからあたるわー、先行ってもいい？

私 全然

友美 むしろいないほうがいい

私 そうそう

友美 なんだよ、まあ、じゃあがんばって

私 うん、っていうか、気持ち悪い？ あたし

友美 ちよつと

私 だよねー（落ち込む）

友美 うそうそ、けなげけなげ

私 ほんとかよ

友美 まあいいんじゃないの、じゃあ、またあとで、

私 うん、教室でー

友美、退場。

13 駅のホーム

私、なんとなく道の脇へ。

私 ……

先輩、登場。持っている本（サンダル）を読みながら。

私 ……

私、先輩の後をついていく。

先輩、止まる。

私も距離を置いて止まる。

私 ……

車掌、登場。マイク（靴クリーム）を持って、

車掌 まもなく2番線に電車がまいります。白線の内側にてお待ち下さい。

車掌、退場。

通行人達、並び始める。

先輩、電車に乗る。

私、追いかける。なぜか私の周りだけ満員電車。あまりの満員ぶりに私、持ち上げられてしまう。

私 ……（恥ずかしい）

先輩（降りる）

私 あ、降ります、降ります

先輩、退場。

私 ああ、

私、追う。

私 (先輩を捜しながら)

私、反対方向からやってきた誰かとぶつかる。

14 田辺先輩

私 あ、すいません、え、あ、

私がぶつかった相手は先輩だった。

先輩 え、何、

私 ……

先輩 集中して読めないんだよね、そんなジロジロ見られると
私 え、え、

先輩、歩き出す。

私 あ、

私、追う。

先輩 ここんどこ毎朝ずっとでしょ

私 え、あ、すいません

先輩 1年生？

私 あ、2年、です

先輩 ふうん

「あゆみ」

私 ……

先輩、立ち止まる。私も、距離を置いて止まる。

先輩 好きなの？

私 え、

先輩 興味あるから見てたわけでしょ

私 ……

先輩 しょうがないな

私 ……

先輩 はい(本を差し出す)

私 ……え、

先輩 いいよ、貸す、もう一回読んでるし

私 ……

先輩 でも大事に読んで、見つけるのすごい苦労したんだから

私 ……

先輩 ろくな本屋がないから、田舎は困るよね

私 ……

先輩 好きなんじゃないの、ミステリ

私 え、あ、はい

先輩 何組

私 あ、Cです、2Cの、中野、です、

先輩 中野さんね、3Aの田

私 (遮って) 田辺先輩

先輩 え、

私 ……ですよね

先輩 うん、まあ読み終わったら返して

私 はい

先輩 じゃ、

先輩、退場。

私、立ち尽くし、

「あゆみ」

私 ……よっしやー！（ガッツポーズ）

私、歩き出す。

スキップしたり、鼻歌を歌ったり、全力疾走したり。

15 読書

私、立ち止まる。

私 ……（浮かれていたことに気がつく）

私、本を開きながら、歩く。

私 ……（読み始める）

友美、登場。

友美 おはよ、また読んでる

私 うん

友美 あみちんよーだな

私 うん

友美 来週期末ですぜ

私 うん

友美 それ何冊目？

私 （手の平を開く、つまり五冊目）

友美 え、そんなに？

私 うん

友美 ぜんぶ先輩から借りたの？

私 えへへ

友美 おー、すごいじゃーん

私 でも最近、時間合わなくなっちゃった

友美 え、なんで

私 先輩、朝講習行くようになって

友美 あーそっか、先輩どこ（の大学）行くの？

私 え、わかんない

友美 なんて調べないと、県内だといいいね

私 え、え

友美 追いかけるんじゃないの？

私 え、あ、あー、でも、そんなの全然考えてなかった

友美 だってあみちん進学でしょ

私 あー、たぶん

友美 てきとーだなー

私 なんだよ、じゃあ友美は？

友美 あたしは専門

私 なんの

友美 かんごー

私 あ、そっか、お母さんと同じとこ？

友美 それはまだわかんないけど

私 ふーん、しっかりしてんなあ（本を読み始める）

友美 だから、試験勉強しろよ

私 （本を読みながら）これ読み終わったら

友美 留年すんぞー

私と友美、退場。

16 突然の雨

私、本を読みながら、

私 ……（雨が降ってきたことに気がつく）

私、本が濡れないようにかばって急ぐ。

私、止まる。家。

「あゆみ」

私 (服の水滴を落とす)

犬、登場。遅れて、母親、登場。

母親 おかえりなさい

私 たいま

母親 ちょうどよかった、あっちゃん、お父さんに傘持ってたて

私 え？

母親 今から帰るって、駅まで、ね

私 えー、お母さんは？

母親 だめ、今、からあげ揚げてるから

私 わーい

母親 わーいじゃなくて、行ってあげて、お願い

私 はーい

母親 ありがとう

母親と犬、退場。
私、引き返す。

17 雨の駅

私、傘(靴べら)をさしながら、もう一本は手に持って、歩く。
私、止まる。駅。

私 ……

先輩、登場。傘を持っていない。

私 あ、

先輩 (私には気がつかずに走って行くこととする)

私 あ、あ、田辺先輩！

先輩 え？

私 あ、中野、です

先輩 …あー、なんか、久しぶり

私 あの、これ

先輩 え？

私 よかったらどうぞ

先輩 いや、だって、え？

私 お返しです、使ってください

先輩 ありがとう

先輩、歩き出す。

私、先輩の後をついていってしまう。

先輩 (私がつけて来ているのに気がついて) ……え、

私 あ、え、あ、あの、すみません

先輩 え？

私 本、借りっぱなしで

先輩 ああ、いいよ、3月までに返してくれば

先輩、歩き出す。私、追って歩く。

私 え、

先輩 ま、受ければの話だけど、

私 ……引越しちゃうんですか、やっぱり

先輩 うん、もっとマシな本屋があるところに、

私 ああ……

先輩 どうだった前の、よかった？

私 あ、はい、

先輩 そう、新刊出たみたいだからあの作家、読んでみたら

私 はい、あの、

先輩 ん、

私 先輩が書いたのは、読ませては、もらえないですか……？

「あゆみ」

先輩 え？
私 あ、あ、うそです、すみません
先輩 え、ちよちよ、待って、小説？
私 (うなづく)
先輩 書いてないよ
私 え、でも
先輩 え、そんなこと言った？ え、なんで
私 だって、それ、ペンだこ、ですよ
先輩 ああ、これは、受験勉強、
私 でももっと前、春とかより全然、前からありましたけど
先輩 すげーな、探偵かよ
私 ち、ちがいます
先輩 いやわかってるけど、ああ、そっか、……でも、だめだめ、あれは
私 はあ、
先輩 途中で止まっちゃってるし、
私 ……
先輩 ん、まあ、じゃあ完成したら
私 はい
先輩 いつになるのかわかんないけど
私 待ってます、
先輩 いやほんと、書くのは向いてないから
私 そんなことないですよ
先輩 え？
私 あ、いや、たぶん
先輩 無理無理、才能ない
私 ……
先輩 でも、やっぱ、出版関係で働きたいけど
私 ……好きなんです
先輩 ていうか他に好きなもんないから
私 ……
先輩 あのさ
私 はい

先輩 誰か待ってたんじゃないの？
私 あ、
先輩 だよ
私 すいません、あ、行きます、あ、すみません、はい
先輩 うん、じゃあ
私 はい、
先輩、退場。
私、走って引き返す。
18 相合い傘
私、急ぐ。
私 ……
父、登場。
私 ああ、ごめんなさい
父親 ……傘は、
私 え、ああ、忘れた
父親 何やってんだ、
私 ごめんなさい
私と父親、相合い傘で歩く。
父親 ……
私 ……
父親 ……学校はどうだ
私 うん、
父親 ちゃんとやってるのか、
私 まあ、ぼちぼち

「あゆみ」

父親 ぼちぼちか、

私 うん

父親 毎日、遅くまで何やってんだ

私 え、本、読んでる

父親 本？

私 うん

父親 なんの

私 借りた、小説、

父親 図書館か

私 え、うん、まあ、そう

父親 どうすんだ？

私 え、

父親 これから

私 ああ、

父親 ……

私 ……

父親 なんにも考えてないのか

私 考えてる、考えてるけど、……まだよくわかんない

父親 ……そうか

私と父親、退場。

19 卒業式

私と友美、登場。

友美は嫌がる私の手を引っ張っている。

私 むりむりむりむり、絶対無理、

友美 だめ、

私 やだやだ

友美 自分で言ったんじゃない

私 あのときはそうだけど、うそうそうそ、冗談、

友美 だめ、

私 だって、

友美 今日言わなかったら一生後悔するよ

私 ……

友美 でしょ？

私 じゃ、じゃあ、友美も一緒に、

友美 それじゃ意味ないでしょうが、

私 えー

友美 じゃあ、あたしは行くからね、ちゃんと言ったよ、じゃあね

私 待って、待って、

友美、退場。

私 ……

友美、登場。

友美 がんばれ

私 ……（うなづく）

友美、退場。

私 ……

先輩、登場。本を読みながら歩いている。

私 ……お、おはようございます

先輩 あ、おはよ

私 おめでとうございます

先輩 ああ、どうも

先輩、止まる。ホーム。

「あゆみ」

私、先輩の横に。

私 いい、天気ですね

先輩 (本を読んでいる)

私 ……

先輩 ……ちよつとさむい、

私 あ、はい

車掌、登場。

車掌 まもなく2番線に電車がまいります。白線の内側にてお待ち下さい。

車掌、退場。

通行人達、並び始める。

先輩、電車に乗る。

私、追いかける。やはり私の周りだけ満員電車。あまりの満員ぶりに私、持ち上げられてしまう。

私 (恥ずかしい)

先輩 …… (私の手を引いて助ける)

私 あ、すみません

先輩 (本を読んでいる)

私 ……

二人、電車を降りる。

先輩、歩く。私、少し距離をおいて追う。

先輩 (本を読んでいる)

私 ……

先輩 (読み終わって) よし

私 ……

先輩 (本を差し出して) はい、

私 え、

先輩 おもしろいよ

私 でも、

先輩 だいじょうぶ、今読み終わったから

私 あ、はあ

先輩 ごめん、やっぱり全然完成しなかったわ

私 え、

先輩 だから、お詫び、

私 あ、はい

先輩 返さなくていいから、あげる

私 ……ありがとうございます

先輩 うん、じゃあ

先輩、行くところ。

私 あ、あの、

先輩 え、

先輩、立ち止まる。

私 あの、

先輩 ……

私 お、お達者で!

先輩 ああ、うん、

私 ……

先輩 じゃあ

先輩、退場。

私 ……

20 教室

「あゆみ」

私、とぼとぼ歩いてくる。

私 ……

友美、登場。

友美 どうだった？

私 ……（友美に抱きつく）

友美 ……よしよし

私 ……

友美 わかった、帰りなんかおごつてあげる、何食べたい？

私 ……

友美 ケーキか、なんだ、アイスか、たこ焼き？ クレープ？

私 からあげえ

友美 わかった、たくさん、食べる、

私と友美、退場。

22 出発

私2、ふたりが去った方向を見ている。
以下、私2が私になる。

私 ……

母親、登場。犬も遅れて登場。

母親 準備できた？

私 うん

母親 忘れ物ない？

私 だいじょうぶ

母親 はいはい、じゃあお父さん、行きます

父親、登場。

父親 うん、

母親 ほら、お父さんに挨拶

私 え、あ、はい、行ってきます

父親 ああ、

母親 なにそれ、

父親 学校はいつからはじまるんだ

私 再来週

父親 そうか、まあ、ちゃんとやるんだよ

私 うん、

母親 夕飯と明日の朝は冷凍しときましたから、メモ見て温めて下さい

父親 メモ？

母親 冷蔵庫のところにくっつけておいたから

父親 どこだ

母親 もーだからいつものとこ

父親と母親、退場。

私 コロ、（撫でて）ほれほれ

犬 （喜ぶ）

私 元気でな

母親 （袖から）あっちゃん

私 え、

母親 （袖から）あっちゃん

私 もー、なに、

母親 （袖から）冷凍したお茶どこだっけー？

私 いらぬから、

母親 （袖から）みかんはー？

私 いらぬって

私、退場。犬も追って退場。

23 上京

私と母親、一列で歩いている。新幹線。

母親 どこ、席

私 えーとね、23のA、B

母親 やっぱり冷凍みかん持つてくればよかったね

私 どっか売ってるでしょ

母親 もったいない

私 あ、すみません

通行人、登場。

母親 あ、こっち側だと富士山見えるよ

私 あ、そうなんだ

母親 うん、ねえカメラどこに入れた

私と母親、歩いている。

大勢の人ゴミにもまれながら。駅。

私 えーと、池袋で乗り換えだから、山手線、ああ、あれ、あの緑の

母親 はいはい、やっぱり（人が）すごいね、

私 うん、離れちゃだめだよ

母親 はいはい

私と母親、歩いている。商店街。

私 こっち、

母親 へー、

私 いい商店街でしょ、うちの方に似てない？

母親 うん、

私 こっから歩いて、10分ぐらい

母親 へー、

私 疲れた？

母親 だいじょうぶ

私 何か買ってこっか

母親 そうしよっか

24 お惣菜屋さん

お惣菜屋さん、登場。

私 ……

母親 合わせて3時間半ぐらい？ それで今、着いたところで

お惣菜屋さん まー、それは遠いところ、

母親 明日、引越しだけ手伝って、私は帰っちゃうんですけど

お惣菜屋さん あら、じゃあお母さん心配ですね

母親 そうなんですよ

お惣菜屋さん でもしっかりしてるじゃないですか

母親 そんな全然、ほんとにまだ子供で

お惣菜屋さん うちの子よりよっぽどしっかりしてますよ、

母親 あら、おいくつですか

私 ちよつと、

母親 え、

私 行くよ

母親 なんで

私 いつまで喋ってるの、

母親 いいじゃない、

私 ほら、

母親 すいません

お惣菜屋さん いえいえ、じゃあこれからいつでも買いに来てね

「あゆみ」

私 あ、はい
母親 じゃあ、ありがとうございました

お惣菜屋さん、退場。

私 やめてよ
母親 なにが
私 恥ずかしいでしょ
母親 ご近所さんと仲良くなった方が安心じゃない
私 だからってお惣菜屋さんで話し込まないでよ
母親 なんて
私 もう、

25
アパート

私と母親、歩いてくる。玄関。

私 はい
母親 ヘーいいところ
私 でしょー
母親 はあ、ちよっと疲れたね
私 ちよっと待って、電気、あ、電気……
母親 え、
私 引越しの荷物に入れちゃった、なんかつけるやつ
母親 あー
私 明日だ、どうしよう
母親 ……あ、トイレは
私 え、
母親 トイレとお風呂の電気つけて、ドア開ければ
私 おー、主婦の知恵
母親 おぼえときなさい
私 今日しか役に立たないけどね

母親 あ、ついでにトイレ貸して
私 いいよ、そのドア、
母親 はいはい、

母親、退場。

私 ……(座る)

26
母を見送る

母親、登場。

母親 ……
私 行く？
母親 うん、そろそろ
私 何時だっけ
母親 新幹線？
私 うん
母親 6時、
私 ちよっと早くない？
母親 うん、でもおみやげも見たいし
私 そっか、じゃあ駅まで送ってく
母親 ありがとう、
私 ううん、
母親 お米なくなったら言ってね
私 うん

私と母親、歩いていく。行きと反対方向。
私、立ち止まる。駅。

私 ……
母親 ……じゃあ

私 池袋でて、山手線だから

母親 うん、野菜ちゃんと食べてね

私 はい

母親 何かあったらすぐ電話しなさい

私 はいはい、そつちも、元気で

母親 うん、じゃあね

私 はい

母、退場。

私 (手を振る)

しばらく見送った後、私、部屋に戻るため歩く。

私 ……

私、止まる。家。

私 ……ただいま

誰の返事もない。

私、その場に座る。

通行人達、通り過ぎる。

私 ……(立ち上がる)

私、歩く。

27 帰社

私、立ち止まる。赤信号らしい。

通行人達も止まる。

私 (手で顔をあおぐ)

全員、一斉に歩き出す。青信号らしい。

私 ……

同僚、登場。

私 おー

同僚 あー、おつかれー、むすねー

私 ほんと、夜なのに全然

同僚 おつかれー

私 まだ、報告書かなきゃ

同僚 うわー

私 もう帰るの？

同僚 だって明日朝早いんだもん

私 あ、そつかり、うわー、

同僚 オッキナワー

私 いいなー

同僚 いっしゅうねんきねーん

私 うるおつてんなー

同僚 じゃあがんばってー

同僚、退場。

私 ちくしょー

私、歩く。

28 前田君

「あゆみ」

私、歩く。会社。

私 おつかれさまでーす

前田、登場。

前田 お疲れ様です

私 あれー

前田 え、

私 なんて、前田君だけ？

前田 みんな帰りましたよ

私 うそ、部長も？

前田 自宅作業とか言っていましたけど

私 絶対ウソだ

前田 まだ何かあるんですか

私 報告書、前田くんは？

前田 精算です

私 ふーん

前田 ……はい、裏紙入れまーす

私 はーい

前田、退場。私、反対方向に向かって歩いていく。

29 お茶

私、歩きながら。

私 前田君、お茶飲む？

前田 (袖から) ……はい

私 熱いの？ 冷たいの？

前田 (袖から) 熱いの

私 はーい

前田、登場。小走り。

前田 あ、

私 え、

前田 あ、あのすいません

私 え、

前田 いや、あの、なんか、ぼーっとしてて、…熱いのでお願いします

私 ……(笑って) ああ、はいはい、それ言いに来たの

前田 あ、はい

私 別にいいのに

前田 いえ、すいません、てか自分で入れます

私 なんだよ、変なやつ

私と前田、一緒に歩く。

30 残業終了

私と前田、歩く。会社を出たところらしい。

私 クーラー切った、電気消した、鍵かけた

前田 はい

私 あ、セキュリティは？

前田 入れました

私 ありがと、じゃあよし、終了、おつかれです

前田 お疲れ様でした

私 なんかお腹すかない？

前田 そうですね

私 よし、じゃあ、飲むか！

前田 え、

私 え、なに？ 行きたくない？

「あゆみ」

前田 いや、あの、給料日前でちよつと持ち合わせが
私 なに、そんなこと？
前田 え、
私 先輩だよ？ まかせとけて！
前田 え、あ、はい！

私と前田、歩いていく。

32 おんぶ

私と前田、歩いている。
前田が私をおんぶしている。

私 (爆笑)
前田 あってます？
私 あってるあってる
前田 これまっすぐですか？
私 そうそう
前田 はい、
私 これどこ向かってるの？
前田 いや、だから中野さん家ですよ
私 ほんとだ、近所だ、家の近所だ、
前田 はい、次は？
私 まっすぐ、なんだよ、まえだ、家の近所住んでんのかよ、
前田 住んでません
私 もっと早く言えよ
前田 住んでません
私 今度遊びにこいよ、飲もうぜ
前田 着いたら帰りますから
私 ああ？ なんだだよ、飲んでけよ
前田 暴れないでください
私 (爆笑)

前田 楽しそうですね
私 なんて？ 楽しくないのー？
前田 あ、いや、……楽しいです
私 あたしは楽しくない
前田 え、
私 あたしも沖繩行きたいな……
前田 ……中野さん、ここは
私 ……中野さん、ここは
前田 ……中野さん、ここは
私 ……中野さん、ここは
前田 ……中野さん、ここは
私 ……中野さん、ここは
前田 ……中野さん、ここは
私 ……中野さん、ここは
前田 ……中野さん、ここは
私 ……中野さん、ここは

前田と私、歩いている。前田が私をおんぶしている。

前田 あの、
私 なに？
前田 ここってさっき通りましたよね
私 なにが？
前田 あの、さっきのところに戻って来ちゃったんですけど
私 ……
前田 中野さん、これ、どっちですか
私 まっすぐ
前田 はあ、
前田と私、歩いている。前田が私をおんぶしている。
前田 わー、
私 なに
前田 いや、やっぱりおんなじとに戻っちゃうんですけど
私 でしょ
前田 でしょって、中野さん、中野さん、起きて、これ、どっちですか
私 まっすぐ、

「あゆみ」

前田 いやでも、
私 ずーとまっすぐ歩けばいいの
前田 えー

33 翌朝

私と前田、歩いている。

私 ……
前田 ……今日も暑そうですね
私 だね、まぶしい(頭が痛い)
前田 頭痛いですか？
私 だいじょぶ、駅こっち
前田 すいません
私 ううん、私こそ、失礼しました
前田 あ、いや、はい
私 ……なんか変なことか言ってなかった？
前田 いえ、
私 そっか、……今日のご予定は
前田 特に、掃除とか
私 あーあたしも洗濯しなきゃ
前田 ああ、

二人、立ち止まる。

私 ご迷惑をおかけしました
前田 いえ、こちらこそ
私 全然、……じゃ、
前田 はい
私 また月曜
前田 じゃあ、お疲れ様でした
私 おつかれー

私 ……
前田、退場。私、反対方向へ。

前田、登場。

前田 中野さん
私 (立ち止まる) え、
前田 あの、
私 ……？
前田 海、いかがですか？

間

前田 ……あ、いや
私 行く、
前田 え、
私 行く、行く、行きたい行きたい行きたい
前田 わかりましたから、
私 ……あ、
前田 え、

私、走りながら、

私 電車、電車、来てる！
前田 あ、

前田、追って退場。

34 海

「あゆみ」

私、海に向かって走りながら、

私 わー、すごい……、まぶしい……、最高……、意外と遠い……、早く……、

私、止まる。海。

私 (苦しい) ほう、

前田、登場。

前田 あー、

私 すごーい、すごいすごい、(深呼吸して) 潮の香りが

前田 はい、げっほ

私 (笑って) なにむせてんの、

前田 ……あっちのほうから降りれますよ

私 海なんて何年ぶりだろー

前田 3年ぶりですね

私 なんて知ってんの？

前田 いや、自分が、

私 ああなんだ、旅行？

前田 サークルの合宿で

私 へー、あ、焼きそば、おいしそー

35 砂浜

私、前田、裸足。歩き方がおかしい。靴を手に持っている。

私 (足の裏が) あつ、あつあつあつ、

前田 ガラスとか気をつけてくださいね

私 はーい、おー、砂の感触が、

前田 裸足で歩くのってなんか、

私 久しぶりだよね、

前田 はい

私 足の裏がくすぐりたい、よっしゃー
前田 あ、

私と前田、突撃。

私 ……

前田 ……

二人とも全身びしょ濡れ。

私 ……ぶ

前田 ……はは

私 あははは

前田 ははは、しよっぱい

私 しよっぺー

前田 財布も、びしょびしょ

私 ごめんねー

前田 いや、だいじょうぶですけど

私 でも、ほんと(こらえきれず) ぶはははは

前田 (笑いながら) ちよっと、

私 ごめんごめん、乾くよね

前田 たぶん

私 これで電車乗ったら怒られるかな

前田 絶対怒られます

35 海辺の散歩

私、歩いている。

私 (何かを拾う)

「あゆみ」

前田、缶ジュース(子供用の長靴)を2つ持って。

前田 お待たせしました
私 ねーねー、これ見て
前田 え？ 何ですか？
私 フナムシ
前田 わぁ
私 うそうそ、かに
前田 びっくりしたー
私 (カニを戻しながら) 情けねーなー
前田 すいません
私 ごめん、ありがとう(ジュースをひとつ受け取り)
前田 いいえ
私 大学のサークルで来たの？
前田 え、
私 海、
前田 あ、はい
私 何サークル？
前田 ミステリーサークル
私 えーつまんない
前田 いや、違いますよ、ほんとにミステリーのサークルなんです
私 あ、そうなんだ、本格？
前田 はい、え、
私 ん？
前田 中野さんも読むんですか？
私 今はんまり、高校のときにちよつとだけ、
前田 へー
私 え、でもさ、ミステリーのサークルが海に行つて何すんの？
前田 海に行つて、読むんです
私 なんだそれ、ね、ね、書いたりはしなかったの
前田 え、……ちよつとだけ、

私 ほんと、今度読ませてよ
前田 いや、でも下手くそですよ、本当に
私 いいからいいから
前田 え、でも、どこしまったかも(忘れちゃったし)
私 だめ
前田 ええ、
私 約束ね
前田 ……はい
私 やった、

36 写真

私と前田、歩いてくる。

私 ここらへんですか？
前田 ……

おばさん、登場。使い捨てカメラ(靴)を持って。

おばさん もうちよつと後ろ
私・前田 (後ろに下がる)
おばさん そこそこ
私 はい
おばさん じゃあ撮りますよ、せーの、あれ、これどこ
私 あ、ここ、ここです
おばさん あ、ごめんなさい、じゃあ撮りますよ、
私 はい
おばさん せーの、はい
私・前田 ……
おばさん はい、どうぞ
私 ありがとうございますー
おばさん いえいえ

「あゆみ」

おばさん、退場。

私 焼き増しするね

前田 すいません

私 ううん、夕日ちゃんと写ってるといいいなー

前田 ですね

私 乾いた？

前田 いえ、あ、はい

私 どっち

前田 乾きました

私 だって、いいえって言ったじゃん

前田 あ、いや、中がまだ、ちょっと、

私 あはは、

前田 でもほとんど乾きました

私 あたしも

前田 ……

私 ……じゃあ、行こっか

前田 はい

私と前田、退場。

37 告白

私、ひとり、歩いてくる。

私 ……

前田、登場。

前田 ……すいません

私 ……なんで謝るの？

前田 いや

私 ごめん、違う違うびっくりしただけ

前田 ああ、

私 だって、そんなハッキリ言わないからさ、大人は

前田 俺も大人ですけど

私 そうなただけど

前田 え、じゃあ、なんて言うんですか、

私 だから、そういうのって別に言ったりしなくて、なんとなくというか、

前田 なんかがぐちゃぐちゃって、いいんだよそんなことは、

私 すいません

前田 ……はい、こちらこそよろしくお願いします

私 ……ありがとうございます

前田 お腹すいた

私 はい、… (手を差し出す)

私 …… (前田の手を握る)

私と前田、手をつないで歩く。

38 ケンカ

私、小走りで行く。前田、追う。

前田、靴を片手に持ち、もう片方の手で私の手をつかんでいる。

私 (手を振りほどいて) やだ

前田 (なおも手を掴もうとして) おい、

私 痛い

前田 (手を離す)

私 さわんないで

前田 待って

私 …… (歩き続ける)

前田 そんな格好で歩いたら風邪ひくぞ

私 ……

「あゆみ」

前田 ほら、靴、
私 (前田が渡そうとした靴をぶつける)
前田 いて、どこ行くんだよ
私 どこだっていいでしょ

私、歩く。前田、追う。

私 ついてこないで
前田 ……

私、歩く。

私 ……

私、振り返るが誰もいない。

私 (立ち止まる)

私、戻る。前田がいた。

前田 (ぼーっとしている)

私 ……なんでついてこないの！

前田 え？ いやだっついてくるなって(言ったじゃん)
私 そーゆーところが信じらんない

前田 なんだよ
私 悪いと思ってるの？

前田 ……思ってるよ
私 ウソ

前田 ほんと

私 じゃあなんで追いかけてこないの
前田 だから、

私 もしあたしが、なんか、変なおじさんとかに襲われたらどうすんの？
前田 えー……
私 バカ
前田 ……
私 バカバカバカバカ

私、歩く。前田、追う。

私 ついてこないで
前田 ……

私、歩く。前田、追う。

私 来ないでってば、
前田 ……

私、歩く。前田、追う。

私 ……(立ち止まる)

前田 (立ち止まって) ごめん
私 (前田に近づき、もたれかかる) ……足、痛い

前田 靴、
私 おんぶ

前田 え、
私 おんぶしろ、

前田 (おんぶの準備)
私 (前田の背中に乗る)

前田 ……ここどこ？
私 わかんない

前田 えー
私 まっすぐ

前田 ほんとに？

「あゆみ」

私 ずーっとまっすぐ行けばいいの
前田 (笑って) はいはい
私 なにがおかしいの
前田 ううん

おんぶしながら私と前田、歩く。

39 梅原

私と前田、歩いている。

前田 おー、自動改札がある
私 おい、なめんな
前田 ごめんごめん
私 ずっとここ使ってた、高校のとき
前田 へー
私 こっからちょっと歩くよ
前田 うん、

梅原、登場。

梅原 中野、さん？
私 え？
梅原 あ、やっぱりそうだ、
私 え？
梅原 あ、ごめんなさい、梅原、覚えてない？
私 ……
梅原 小学校の、通学路が一緒だった、ほら練り消しの、
私 あー
梅原 思い出した
私 梅原君
梅原 そうそう

私 何やってんの？
梅原 ちよっと、買い物
私 えー、うそ、久しぶりー (前田に) 小学校の同級生
前田 ああ、
私 (梅原に) えっと、
梅原 旦那さん？
私 あ、うん
梅原 どうも
前田 どうも
私 すごーい、
梅原 懐かしいなー
私 みんな元気？
梅原 うん、綾乃、こっち、こっち
私 え？

子供、登場。

子供 ……？
私 えー？ 子供？
梅原 うん
私 誰の？
梅原 俺の俺の、ほら、綾乃、あいさつ
子供 こんにちは
私 こんにちは、いくつ？
子供 (指を二本立てて) みっつ
私 え、どっち
梅原 ちがうでしょ、3はこう
子供 あ、そっか
私 かわいいー
子供 (照れる)
梅原 しばらくこっちいるの？
私 ううん、明日まで

梅原 そつか、でも元気そうだね
私 うん
梅原 ほら、綾乃、さようなら
子供 さようなら
私 ばいばい
子供 ばいばい

梅原と子供、退場。

私 びつくりしたー
前田 卒業ぶり？

私と前田、歩いていく。

40 帰省

私と前田、立ち止まる。

前田 ここ？
私 うん、うわーなんかすごい変な感じ
前田 なにか？
私 二人でいるのが、ここに
前田 うん
私 緊張してる？
前田 ちよっと
私 ただのおっさんとおばさんだから
前田 おっさんって
私 ……行くよ
前田 うん

私と前田、歩く。

私 ただいまー
前田 ……
母親 (袖から) はい

母親、登場。

母親 おかえりなさい
私 うん、
母親 あ、
前田 どうも、前田と申します
母親 どうもー、いつもお世話になってます
前田 いいえ、こちらこそ
私 お父さんは？
母親 奥でテレビ見てる、お父さん
私 いいよ、別に呼ばなくて、
母親 疲れた？
私 ううん
母親 手巻き寿司はお好きですか？
前田 あ、はい、大好きです
私 からあげは、
母親 あるよ
私 わーい、

母親、退場。私と前田、退場。

41 結婚式

私、ゆつくりと歩く。

母親 (袖から) あっちゃん？
私 はい
母親 (袖から) 今だいじょうぶ？

「あゆみ」

私 はい、

母親、登場。

母親 すごい、きれいきれい

私 ありがとう、なに

母親 ほら、お父さん

私 え？

父親、登場。

私 え、なになに？

父親 ……

母親 もう、自分で言ってみよ、それぐらい

父親 うん

私 ?

母親 あのね、練習したいんだって

私 練習？

母親 歩く練習、

私 ……あー、はいはい、

母親 恥ずかしくて全然喋らないんだから、

私 なんて、普通に歩くだけじゃん、

母親 なんか不安みたい、一回だけ、お願い

私 別にいいけど

母親 はい、お父さん、時間ないんだから、

父親 うん

私と父親、並ぶ、

私 じゃあいくよ

父親 待て、

私 え、

父親 最初はどっちだ、右か、左か

私 どっちでもいいよ

父親 どっちだ

私 じゃあ右

父親 右だな

私 うん

母親 足を揃えながら歩くときれいに見えるよ

父親 なに？

私 そうそう、じゃあいくよ、せーの

私と父親、歩く。母親、後ろをついていく。

母親 ああ、バラバラ、お父さん、早い、早い

父親 え？

母親 お父さん、右、右足

父親 ん

私 痛い痛い、足踏んでるから

父親 ああ、すまん

母親 お父さん、左、ああ、右

父親 ……

母親 ああああ、

父親 うるさいな、

母親 なに、

父親 気が散るんだよ、ごちゃごちゃごちゃごちゃ

母親 せっかく人がアドバイスしてるのに

私 ケンカしないでよ

父親 もう一回

母親 声だしてやってみたら、

私 あーそうしょつか

父親 うん

私 じゃあいくよ、せーの、右、揃える、左、揃える、右、揃える、

母親 ああ、上手い上手い

「あゆみ」

私と父親の足並みが揃いはじめる。
私と父親と母親、退場。

42 妊娠

私、ゆっくりと歩いている。

私 ……

歩き続けるうちに私のお腹が徐々に大きくなる。
しかし、大きなお腹は見えない。
私の歩き方でお腹が大きくなっていくことが観客にわかる。

私 (嬉しい)

まだまだ大きくなる。

私 (嬉しい)

まだまだ大きくなる。

私 (不安)

ありえないほど大きくなった私のお腹。

私 ……やばいやばいやばい。これはやばい。

前田、いそいでやってくる。

前田 今、タクシー来たから！

私 やばいやばいやばい

前田 だいじょうぶ？

私 だいじょうぶじゃない！

前田 あ、ごめん。歩ける？

私 う、うん

前田 がんばれ

私 ……(一生懸命歩く)

前田 ひっひふーひっひふー

私 ひっひふーひっひふー、生まれちゃう！

前田 ああ間違えた

私 ばか！

前田 ごめん！

私 (止まっている)

前田 え？

私 休憩！

前田 いや、でも

私 うるさい！

前田 え、だって、タクシー

私 むりむりむりもう歩けない。

前田 でも、

私 ……

前田 がんばれ

私 ……(氣力をふりしぼって) おりゃー！

娘、登場。

前田 おお！

私と前田、退場。

43 デパート2

娘 (上手に) おかあさん

「あゆみ」

私、登場。

娘 これ、これ、
私 もー、ひとりで行っちゃダメって言うてるでしょ
娘 買ってー
私 だめ
娘 買って買って買って買って
私 買いません
娘 バカ、お母さんのバカバカバカ、ブスブス、デブ
私 (はたく)
娘 いたいー
私 ほら行くよ

私、歩いていく。娘、後ろをついていく。

私 同じの持ってるでしょ
娘 違うやつなの
私 一緒じゃない
娘 水がでるの、目からね、水がびゅーってでるの
私 じゃあ、水
娘 ダブルなの、赤い水と青い水がでるの
私 はいはい
娘 ふりまわすと緑の水もでるの
私 なんてそんなの欲しいのよ
娘 買ってよー
私 じゃあ、ピーマン食べられるようになったら買ってあげる
娘 食べれるよ
私 うそ
娘 ほんとだよ
娘 うーそ
娘 ……

私 ほら、行くよ
娘 ……
私 また今度ね

私、歩いていく。娘、戻ってしまっ。

娘 ……

娘、退場。

私 お誕生日までがまんしなさい

私、歩き続けているが、娘の返事がないことに気がついて、

私 ……(振り返る)

娘、いない。

私 あれ……、

私、だんだんと、必死に、娘を探す。

私 ……

私、走る。

私 ……どこぞ？

娘、登場。踊りながら、

私 ……

娘 (一生懸命踊っている)

「あゆみ」

私 (はたく)
娘 いたいー
私 なにやってんの？
娘 お母さんが買ってくれるようにお祈りしてるの
私 ばかじゃないの
娘 ばかじゃないもん
私 ほら行くよ
娘 買ってー

私と娘、歩く。

44 電話

私と娘、歩いていく。帰宅。

私 ただいまー
娘 ただいまー
私 おかえりなさい
娘 おかえりなさい、ジュースジュース
私 はいはい、手洗ってきたら飲んでいいよ
娘 ーい
前田 (下手袖で) あ、今、帰ってきました

娘、退場。

娘 お父さん、ただいまー

前田、登場。

私 ただいま、今、夕飯作るね
前田 おい、電話
私 ん？

前田 電話、お義父さんから
私 なに？
前田 お義母さん、倒れたって
私 ……え、
前田 今、病院から、お義父さんから、お前に、
私 うそ、
前田 早く、

私、走る。前田、追って退場。

45 街中

私と娘、走っている。手をつないでいる。
大勢の通行人。

私 (ぶつかりそうになって) すいません
娘 ……お母さん
私 ……
娘 お母さん
私 ……
娘 お母さん、痛い
私 え、
娘 手、痛いよ
私 ああ……ごめんね、
娘 ううん

46 新幹線

私と娘、歩いている。

私 ……

通行人、登場。

私 すいません、ほら、こっち
娘 ……

車掌、登場。

私 あ、すいません、
車掌 はい
私 公衆電話はどこにありますか？
車掌 2号車デッキにあります
私 はい、どうも

通行人、退場。私と娘、歩く。

車掌 あ、違います
私 え？
車掌 そっちじゃないですよ、2号車は（逆方向を指し）こっち
私 ああ、どうもすいません

車掌、退場。私と娘、反対方向へ。

47 公衆電話

私、公衆電話（緑色の靴）を持っている。

私 あーちゃん、こっち
娘 うん

娘、追ってやってくる。

私 ここにいて
娘 （うなづく）
私 ……
娘 （一人で遊んでいる）

私、電話が繋がったらしい。

私 すいません、中野につないでもらえますか、はい、今日、入院した中野で
娘 （遊んでいる）
私 ……あ、もしもし、お父さん、うん、今ね、新幹線乗ったから、あと
娘 （遊んでいる）
私 ……うそ
娘 ……
私 ……
娘 ……わかった

私、電話がおわったらしい。

私 （しゃがみこむ）
娘 お母さん、アイス食べたい
私 ……
娘 ……

娘、私の近くにやってくる。

娘 ……お母さん
私 ……
娘 お母さん？ だいじょうぶ？
私 ……
娘 どうしたの？ どっか痛いなの？

私 ……
 娘 お母さん？
 私 ……あーちゃん
 娘 ……？
 私 ……さつきは痛くしてごめんね、
 娘 ううん
 私 お母さん怖かったね
 娘 ……
 私 ごめんね
 娘 ううん
 私 ……あのね、
 娘 うん、
 私 こっち側だとね、富士山が見えるんだよ
 娘 ふじさん？
 私 おつきい山、
 娘 何にも見えないよ
 私 ……そうだね、夜だから何にも見えないね
 娘 ……
 私 アイス食べる？
 娘 ううん、いらぬ
 私 チョコ？ 白いの？
 娘 ……白いの
 私 うん、買いにいこっか
 娘 ……

私と娘、手をつないで、歩く。退場。

48 計画

私、ひとりで歩きながら登場。手にはたくさんの靴箱。

私 えー一緒に行こうよ

娘、同じく靴箱を持って歩いて登場。

娘 嫌だよ
 私 なんて、あんたももうちょっとダイエットしないと
 娘 うるさいな
 私 ねー
 娘 気持ち悪い、お父さんと一緒に行けばいいでしょ
 私 だめよ、お父さんは、行かないって言うに決まってるもん
 娘 あたしだってやだ、なんでお母さんと
 私 絶対楽しいから
 娘 絶対楽しくない
 私 山って言ってもね、全然高くないの、丘みたいなもんだから
 娘 やだ
 私 つらくなったらねケープルカーもあるからそれで頂上もいけるし
 娘 無理
 私 なんて
 娘 友達と遊びに行くからダメ
 私 ……友達って男の子？
 娘 違う
 私 隠さなくてもいいじゃない
 娘 違うって言うてるでしょ
 私 あー、冷たいー
 娘 なげいま山登り
 私 運動したい気分なの、最近歩いてないし
 娘 ふーん
 私 あ、卵
 娘 え？
 私 卵、忘れてた
 娘 ああ
 私 持ってきて、あたし並んどくから
 娘 えー、自分で行きなよ

「あゆみ」

私 やだ、広くてどこだかわかんなくなるんだもん、お願い
娘 運動したい気分じゃないのかよ

娘、退場。

私 ありがとうー

私、歩いていく。

49 初心者用コース

通行人が行き来する。

私 ……

私、歩いてくる。

私 あれ？（キョロキョロ）

案内人、登場。

案内人 どうしました？

私 あ、すみません、ここって

案内人 登りますか？

私 あ、はい

案内人 そしたらこっちが逆、さっきの看板とこ右に行かないと

私 ああ、

案内人 こっちはケーブルカー乗り場だから

私 あ、すみません

案内人 いえいえ、はじめてですか

私 はい

案内人 そしたら初心者用のコースで登られるといいですよ、途中にお茶屋

さんもありますから

私 そうですか、わかりました

案内人 はい、じゃあ、いってらっしゃい

私 はい、ありがとうございます

案内人 いいえー

私、歩いていく。案内人、退場。

私 ……

50 登山

私、歩いている。

私 （案内板を見ている）

登山者、登場。

私 あ、すみません

登山者 え、

私 あの初心者の道はこれで（いいんですよ）

登山者 あ、はい、そうだと、思いますけど、

私 どうも

登山者 いえいえ、

私 あ、すみません

登山者、退場。

私 （再度、案内板を確認し）よし

私、山を登る。

以下、指定がない限り私は山を登り続ける。

登る方向は、いままで、私が歩いていた方向とは逆方向。

私
(鼻歌)

先生と子供達、登場。

先生 みんな、植物は獲っちゃだめだからね、気になる植物や虫がいたらス

ケッチするんだよ

子供A はい

子供B 先生、上野君がお花踏んだー

子供C 踏んでねーよ

私、速度を落とし道をゆずる。

先生 (会釈)

私 (会釈)

先生と子供達、退場。私、歩いていく。

私
(鼻歌)

女 (下手袖から) すいませーん

私 ええ?

女と男、登場。

女 すいません、写真撮ってもらってもいいですか

私 あ、はい、いいですよ

女 ありがとうございます、

私 いいえ

女 (カメラを渡し) ここ押してもらえればいんで

私 あ、はい

女 ここらへんですか?

私 もうちょっと後ろかな

女・男 (後ろに下がる)

私 そこそこ

女 はい

私 じゃあ撮りますよ、せーの、はい

女・男 ……

私 はい、どうぞ

女 ありがとうございます

私 いえいえ

女 のど乾いた

男 この先に茶屋なかったっけ

女 休むー

女と男、退場。

女と男が退場すると同時に、私2と前田、登場。

山を登る私は上り続けている。

私には、私2と前田が、見えているのかわからないのか。

51 写真の思い出

私、私2と前田のあいだを登る。

私2 乾いた?

前田 いえ、あ、はい

私2 どっち

前田 乾きました

私2 だって、いいって言ったじゃん

前田 あ、いや、中がまだ、ちょっと、

私2 あはは、

前田 でもほとんど乾きました

私2 あたしも

「あゆみ」

「あゆみ」

前田 ……
私2 ……じゃあ、行こっか
前田 はい

私2と前田、退場。

52 おんぶの思い出

親子、登場。親が子をおんぶしている。

親 るりちゃん、鳥さんいるよー
子 とりさん？ どこー
親 どこだろうねー
子 いないよー
親 いるよ、遠くで鳴いてるよ
子 ほんとだ
親 ねー

私、すれちがう。

私 ……

親子、退場。

私2と前田、登場。前田、私2をおんぶしながら、

私2 これどこ向かってるの？
前田 いや、だから中野さん家ですよ
私2 ほんとだ、近所だ、家の近所だ、
前田 はい、次は？
私2 まっすぐ、あれ、なんだ、まえだ、家の近所に住んでんだ、
前田 住んでません
私2 なんだー、もっと早く言ってよ

前田 住んでません
私2 今度遊びにきなよ、飲もうぜ
前田 着いたら帰りますから

私2と前田、退場。

53 海の思い出

私、徐々に速度を落とし立ち止まる。

私2 (何かを拾う)
私 (軽く伸びをする)

茶屋のおばちゃん、登場。
莓ミルク(ピンクの靴下)を持って、
私2と前田、登場。前田は缶ジュースを2つ持って、

茶屋のおばちゃん はい、莓ミルクおまちどおさま
私 ありがとうございます
前田 お待たせしました
私2 ねーねー、これ見て
前田 え？ 何ですか？
私2 フナムシ
前田 わぁ
私2 うそうそ、かに
前田 びっくりしたー
私2 (カニを戻しながら) 情けねーなー
前田 すいません
私2 ごめん、ありがとう(ジュースをひとつ受け取り)
前田 いいえ

私、登りはじめる。

「あゆみ」

私2 大学のサークルで来たの？

前田 え、

私2 海、

前田 あ、はい

私2 何サークル？

前田 ミステリーサークル

私2 えーつまらない

前田 いや、違いますよ、ほんとにミステリーのサークルなんです

私2 あ、そうなんだ、本格？

前田 はい、え、

私2 ん？

前田 中野さんも読むんですか？

私2 今はあんまり、高校のときにちょっとだけ、

私2と前田、退場。

54 高校時代

私は、山を登り続けている。
私2と友美、登場。

友美 おはよ、また読んでる

私2 うん

友美 あみちゃんよゆうだな

私2 うん

友美 来週期末ですぜ

私2 うん

友美 それ何冊目？

私2 (手の平を開く、つまり五冊目)

友美 え、そんなに？

私2 うん

友美 ぜんぶ先輩から借りたの？

私2 えへへ

友美 おー、すごいじゃん

私2 でも最近、時間合わなくなっちゃった

友美 え、なんで

私2 先輩、朝講習行くようになって

友美 あーそっか、先輩どこ(の大学)行くの？

私2 え、わかんない

私2、退場。

友美、私に話しかける。

友美 (私に) なんで調べないと、県内だといいいね

私 ……え？

友美 (私に) 追いかけるんじゃないの？

私 え、え、

55 もっかい卒業式

友美、私の手を掴む。

友美 ちよつとなにやってんの？

私 え？

友美 早くしないと、先輩行っちゃうでしょうが

私 え、え、え

友美 今日こそ、ちゃんと言うんでしょ

私 えー、

友美 ほら、こっち

私 やだやだやだやだ

友美、私を引っ張って、

「あゆみ」

私 むりむりむりむり、絶対無理、
友美 だめ、
私 やだやだやだ
友美 自分で言ったんじゃない
私 あのときはそうだけど、うそうそうそ、冗談、
友美 だめ、
私 だって、
友美 今日言わなかったらほんとに一生後悔するよ
私 ……
友美 でしょ？
私 ……うん
友美 じゃあ、あたしは行くからね、ちゃんと言うんだよ、じゃあね
私 友美
友美 なに、
私 ありがとう
友美 がんばれ

私 ……
友美、退場。

私 ……
先輩、登場。

私 あ、
先輩 ……
私 あ、あの
先輩 ……
私 田辺先輩、
先輩 え？（立ち止まる）
私 あ、元、2Cの、中野です
先輩 ……ああ、なんか、久しぶり
私 はい

先輩 うん
先輩、歩く。本を読みながら。
私 ……
私、距離を置いて歩く。
私 ……良い天気ですね
車掌、登場。
車掌 まもなく2番線に電車がまいります。白線の内側に下がってお待ち下さい。
私 ……ちよつと暑い
私 ……本、とつてもおもしろかったです
先輩 （顔を上げ）え、
私 いただいたの、
先輩 そう、よかった
私 感想、言えなかったから
先輩 ああ、どう最近は、読んでる？
私 あ、はい、いや、でも、ときどき
先輩 ときどきか
私 すいません
先輩 ううん、やっぱ昔みたいには読めないよね
私 はあ
先輩 あの頃はよかったな、一日がもつと長かった気がする

「あゆみ」

先輩、歩く。私、距離を置いて歩く。

私 ……あの

先輩 ん？

私 小説は、

先輩 え、

私 先輩の、

先輩 ああ、あれは、もう、（首を横振る）

私 ……そうですか、

先輩 結局、一度も完成しなかった、ごめん

私 いいえ、…あ、あの

先輩 え

先輩、止まる。私も止まる。

私 あたし、

先輩 ……うん？

私 ずっと先輩のことが好きでした

先輩 うん

私 ……はい

先輩 ありがとう

私 いいえ、

先輩、歩き始める。私も歩いてついていく。

先輩 ……でもね、

私 え、

先輩 今度もう一回、挑戦してみようと思ってる

私 ……

先輩 下の子が落ち着いて、子育てが一段落したら、そしたら、今度こそ

私 はい

先輩 もし、そのときは、すごい遅くなっちゃったけど、読む？

私 もちろんです

先輩 うん、

私 ……うちの旦那もちょっと書いてたんですよ

先輩 へー、どうなの？

私 もうぐちゃぐちゃ

先輩 （笑う）うちの旦那はまったく読まないな

私 そうなんですか

先輩 うん、

私 はい

先輩 中野さん子供は？

私 一人、です

先輩 女の子？

私 はい

先輩 うちも、二人とも女の子

私 似てます？

先輩 似てる似てる、目つきの悪いとこなんかあたしそっくり

私 へー、

先輩 ……（笑う）

私 え、

先輩 あのさ、

私 はい、

先輩 山、登ってたんじゃないの？

私 あ、

先輩 だよ

私 すいません、あ、行きます、あ、すいません、はい

先輩 うん、じゃあ、

私 あ、あの、

先輩 え？

私 これからも、お達者で、

先輩 うん、じゃあ

先輩、退場。本を読みながら、

「あゆみ」

私 ……

私、再び山を登る。

56 犬の散歩

飼い主と犬、登場。

私 ……あ、

犬、私の足にすり寄る。

私 あらあら

飼い主 あ、すいません

私 いいえ、お散歩ですか

飼い主 あ、はい、近くに住んでるもんで

私 へー、(犬に) そうなんだ、いいねー

犬 (喜ぶ)

私 女の子ですか

飼い主 はい、メスです

私 お名前は?

飼い主 モコ

私 モコ?

飼い主 モコモコしてて、子犬のとき

私 ああ、

子供1と子供2、登場。

子供1 あ、犬だ

子供2 ほんとだ

子供1 さわっていい?

飼い主 いいよ

子供2 かまない?

飼い主 優しくさわればかまないよ

子供1と子供2、犬の頭を撫でる。

子供1 おれ犬の絵描こう

子供2 だめだよ

子供1 なんで

子供2 山の生き物って先生言ったじゃん

子供1 だって、いるじゃん

子供2 でも、犬は山の生き物じゃないもん、そうですよね

私 そうかもね

子供2 ほら、

子供1 わかったよ

子供1と子供2、退場。

飼い主と犬、歩いていく。

飼い主 (会釈)

私 (犬に) じゃあね

飼い主と犬、退場。

私 ……(鼻歌)

私、再び山を登る。

57 小学時代

別の私(私2)と犬、登場。

「あゆみ」

私2 …… (尾崎さんを探すがいない)

私2と犬、退場。男子、登場。

私 (鼻歌)

私2、とぼとぼ歩いている。

男子 おい、あほみ、おせーよ、サクサク歩け

私2 ……

男子 無視すんな

私2 ……抜かせば

男子 え？

私2 だったら抜かして行けばいいでしょ

男子 ……

男子、私2を抜かす。

男子 (戻ってきて) お前、どっかわるいんじゃないの

私2 別に、

男子 あ、宿題やってくるの忘れたんだろ、俺もやってねー

私2 あのさ、

男子 え、

私2 あんた、なんか悩みとかないわけ

男子 悩み？ あるよ、二学期まじなげーよな

私2 ……

私2、男子を抜かして退場。

男子 ……なんだよ

男子、退場。

私 (鼻歌)

私、ふたりとすれ違いながら山を登っている。
トイレ待ち1とトイレ待ち2、上袖を先頭に並ぶ。

私 ……あれ？

私、ウロウロする。

私 あの、すみません

トイレ2 あ、はい

私 ここが一番最後ですか？

トイレ2 だと思っんですけど

私 はい、

トイレ2 すごい行列ですよ

私 です

トイレ2 上にもうちよつと行くとあるみたいなんですけど、

私 ああ、

トイレ2 でもねえ、我慢しながらのぼれないですよ

私 ああ(笑う)

私、トイレ2の後ろに並ぶ。

女子1・2・3、登場。靴下で手を拭きながら、

女子1 あれ、みどりちゃん？

女子2 まだ

女子1 またー？

女子3 ねー

女子1 どうする？

女子2 (笑って) 行っちゃおう？

女子1 えー？

「あゆみ」

女子3 お腹すいたー

女子2 今、どのくらいかなあ

女子3 お弁当食べたなら怒られるかな

女子1 怒られるよ

女子2 おやつだったらいんじゃない？

女子3 そっか

女子2 食べようぜー

女子1 やったー

トイレ1、2いつのまにかいない。

女子1・2・3、退場。

それを引き継ぎ、かつての女子1・2・3、登場。

女子1 (止まって) 行かないの？

私 ……え？

女子2 あみちゃん、行こう

私 ……

私、ついていってしまふ。

女子1 なんで待たなきゃいけないの？

女子2 ほんと、ねー

女子1 走ろっか

私 え？

女子1 走ろうよ、だって追いつかれちゃうよ、ほら

女子2 えー

女子1 急がないと、来ちゃう来ちゃう

女子2 あはは

女子1 ほら、あみちゃんも、

私 あ、

女子1・2・3、退場。

私、後ろを気にしながら走る。

私 ……

私、立ち止まる。

私 ……

私、反対方向に、早足で、

私 ……

私、走る。

私 ……

私、走る。

私 !

私、急に立ち止まる、

58 再会

尾崎さん、登場。

尾崎さん ひどいなあ、先行っちゃうんだもん

私 ……

尾崎さん、歩く。私、後を追う。

尾崎さん コロ元気？

「あゆみ」

私 ……
尾崎さん 死んじゃった？
私 ……うん
尾崎さん なんて、病気？
私 ううん、老衰、肺に水が溜まって
尾崎さん そう、でも長生きしたんでしょ
私 うん
尾崎さん そっか、じゃあよかった
私 尾崎さん、あのね
尾崎さん あの公園、あれから行った？
私 ううん
尾崎さん そっか、行けばいいのに
私 あのね、
尾崎さん なに？
私 ……ごめんなさい
尾崎さん ……
私 先行っちゃってごめんなさい
尾崎さん ……
私 みんなに待とうってちゃんと見えなくてごめんなさい
尾崎さん ……
私 ドリルのこと尾崎さんが教えてくれたのにお礼言わなくてごめんな
さい
尾崎さん ……
私 あれから、なんかさげちやっつてごめんなさい
尾崎さん ……
私 ちゃんとごめんなさいって見えなくて、ごめんなさい
尾崎さん ……
私 ごめんなさい
尾崎さん ……もういいよ
私 リンゴ食べちゃってごめんなさい
尾崎さん 食べたの？
私 だってどうしていいかわかんなくて、食べちゃった、

尾崎さん 何個？
私 3個
尾崎さん お腹壊さなかった？
私 気持ち悪くなった
尾崎さん そりゃそうでしょ、おいしかった？
私 (少し笑って) うん
尾崎さん (笑う)
私 ……ねえ、
尾崎さん ……
私 尾崎さん、病院にお見舞いに行ってたの
尾崎さん うん
私 お母さんの？
尾崎さん うん
私 でも、あの日から、尾崎さん公園に来なくなったよね、
尾崎さん それが？
私 道変えたの？
尾崎さん 違うよ
私 時間変えたの？
尾崎さん 違う、もう行く必要がなくなったんだよ
私 ……じゃあ
尾崎さん ……
私 ……
尾崎 ……ぶ、
私 え？
尾崎さん あははは
私 ええ？
尾崎さん あみちゃん、勘違いしてる
私 え？
尾崎さん あたしのお母さんが死んだと思ってるでしょ
私 え、違うの？
尾崎さん 失礼な、今も元気だよ
私 え、

「あゆみ」

尾崎さん あたしね、お姉さんになるんだよ、ていうかもうなったんだけど
私 え、
尾崎さん お母さん、妊娠してたの
私 えー、そうなの？
尾崎さん そうだよ、
私 だって、そんなこと全然
尾崎さん あんときは何か恥ずかしくて
私 じゃあ、
尾崎さん うん、生まれたの、弟
私 そうなんだ
尾崎さん もうめっちゃかわいくて、あみちゃんにも写真見せたかったなあ
私 うん……
尾崎さん ……でもね、かわいかったのは最初だけでもうほんと生意気でむか
私 つくんだよ
尾崎さん そうなんだ
私 蹴ってくるし、最悪だよ
私 はは
尾崎さん 今はね、アメリカにいる
私 へー
尾崎さん もうあんまり会わなくなっちゃった
私 ……うん
尾崎さん りんごの芯、公園に捨てたでしょ、公園の砂場、
私 え？
尾崎さん そっから芽が出てね、木が生えて、今、あそこりんご公園って呼ば
れるよ
私 うそー
尾崎さん ほんと
私 だってそんな砂場から、生えないでしょ
尾崎さん じゃあ見に行ってみたら
私 え、
尾崎さん こんど確かめに行ってみたら、
私 うん

尾崎さん あみちゃん、宿題終わった？
私 ……うん、あともうちよつとだけ
尾崎さん そっか、じゃああたしこっち
私 うん
尾崎さん また、公園で
私 うん、
尾崎さん ばいばい
私 ばいばい

尾崎さん、退場。

私 (見送る)

59 山頂

私、再び山を登る。

私 ……

夫婦、登場。

夫 あのーすいません
私 あ、すいません、すいません

私、道を開ける。

妻 (会釈)
私 すいません
夫 お、富士山だ
妻 え、どこですか
夫 ほら、あそこ、ちっちゃいけど
妻 見えないうすよ

「あゆみ」

夫 見えるだろう

夫婦、退場。

私 ……

私、山登りを続ける。
子供1と2、登場。走り抜ける。

子供1 いちばーん
子供2 俺がいちばーん

私、歩く。

私 ……

私、歩く。

私 …… (息があがってくる)

私、歩く。

私 …… (立ち止まる)

山頂。

私 (大きく背伸びをし、深呼吸)

大勢の登山客が行き来しはじめる。
一気に騒がしくなる。

私 ……

登山者1 トイレどこー

登山者2 あっちにあったよ

登山者3 先生、梅田君が転んだー

登山者4 えー

登山者5 ほら、やっぱり富士山が見える

登山者6 あれ富士山ですか、

登山者8 おかあさーん

などなど。

私、景色を眺めながら歩く。

私 ……

私2、登場。

私2 (私の手をとり) おかあさーん

私 え?

私2 あ、

私 ……

私2 あ、あ、(逃げる)

私2、行ってしまふ。

私 あ、待って

私、追いかける。

私2、徐々にスピードが落ちてくる、とぼとぼとぎよるぎよる。
私2、立ち止まりうつむく。

私2 ……

母親、登場。

母親 (私の頭に手を置き) もー、あっちゃん、どこ行ってたの
私2 ……
母親 だからひとりで行っちゃダメって言ってるでしょ
私2 ……
母親 ほら

私、登場。

私 ……
私2 (母親にしがみつく)
母親 なに、どうしたの…… (私に気がつく)

私と母親、見つめ合う。

私2 (しがみついている)
母親 えー? (自然とだっこに移行)
私2 (素直にだっこされる)
母親 どうしたの?

母親と私2、退場。

私 ……

また、周りには大勢の登山客が、

私 ……

私、歩いていく。

60 あゆみ

私、歩いていく。

私 ただいまー

前田、登場。

前田 おかえり
私 ただいま帰りました
前田 どうだった、
私 うん、よかった、いま晩ごはん作るから
前田 ああ、だいじょうぶ
私 え、

娘、登場。

娘 おかえりー、
私 ただいま、あれ、もしかして作ってる?
娘 そうだよー
私 うそー
前田 うん
娘 うんってお父さん何にもしてないじゃん
前田 卵割っただる

前田、退場。

娘 そんなだけでしょ
私 え、すごい、なに作ったの
娘 からあげ
私 やったー、わーい
娘 なにそれ、子供みたい

「あゆみ」

私 あはは

娘 おいしいかどうかわかんないよ

私 おいしいに決まってるよ

娘 なんて

私 だってあゆみが作ってくれたんだもん
娘 気持ち悪い、お父さんお皿用意してー

娘、退場。

私 ……あー、お腹すいた

私、歩く。

61 散歩

私、歩く。

私 ……

女性、登場。

女性 あみさん？

私 ……

女性 あみさん

私 はい

女性 どこに行くんですか？

私 ちょっと、散歩に行つてきます

女性 一緒に行きましょうか、

私 近くだからだいじょうぶ

女性 はい、4時までには帰つてきてくださいね

私 はい、

私、歩く。女性、退場。

私 ……

私、歩く。

私の足取りに合わせて音楽が鳴り始める。

その音は周りの通行人達の音に重なり音楽となる。

私を含める人々の行き来がそのままダンスへと変わる。

やがて音楽はゆっくりと消え、また私が一人歩き続ける。

私 ……

私、歩き続ける。

62 最後の一步

以下のセリフを10人で分割して歩きながら言う。

歩き切った私から順に「あゆみ」から解放される。

自由に舞台を歩いたり、座ったり、セリフを言う者を見たり。

私 ……えーと私は、一生に、だいたい1億8千万歩ぐらい、歩きます。スキ

ップとか、けんけんとか、お墓参りとか、扇風機の首を追いかけたりとか、

お店に並んだり、デートしたり、夜中、喉が渴いてコップの水を飲んだり、

そーゆーの全部合わせて1億8113万1982歩、です。それが多いのか

少ないのかよくわかりませんが、そう思うとずいぶん遠くへ来たもんで

す。振り返っても、もう何にも見えないですけど、でも、ふとおもむるに

(止まって)立ち止まったりして、で、(歩き出し)また歩きだしたりし

て、考えてみると、でもこれって先をたどれば最後は、一步、なわけ。こ

れまでも、これも、これからも、どこまで行つても、最後の一步の途中なわ

けで。うれしくてなんか早足になっちゃったのも、行きたくないの我慢して

無理矢理歩いたのも、全部その前の話だから、全部そこに繋がるから。

最後の私の歩調に合わせて、光の道が消えていく。
見守る、私たち。

私だから、最後はもちろんそこに。はい。じゃあ、行きます。せーの、さいごのいっぽ。

私、ジャンプ。

と、同時に最後の道も消える。

暗転。

「あゆみ」おしまふ。

本作品の著作権は、作者である柴幸男に帰属します。
上演許可などのお問い合わせは、作者の所属する劇団「ままごと」まで。
上演をする際は有料無料に関わらず、必ずご連絡ください。

ままごと HP www.mamagoto.org
MAIL mamagoto.org@gmail.com